



人間は一生を
通して
誰になるものでも
自分になるのだ
ない

仲野 良俊



2023.7

第22号
正法寺発行

宗祖親鸞聖人御誕生ハ百五十年
立教開宗ハ百年慶讃法要
長崎組第三ブロック団体参拝特集



スタンプカードに
記録しながら
楽しく参加ができ
ます。



書く



通す



貼る



毎月28日13:30~15:30
(参加費500円)

SINGOJUTAIHEISENENZAN SHOBUN



毎月28日の13:30から15:30まで
正法寺本堂にて開催中の月一報恩講
「行いがわたしを導く時間」。順調に内
容をすすめています。12月の帰敬式を
受式されたい方はぜひご参加ください。



宗祖親鸞聖人
御誕生
立教開宗
S50th
S800th

宗祖親鸞聖人御誕生ハ百五十年 立教開宗ハ百年慶讃法要

九州教区長崎組第3ブロック団体参拝
【令和5年 4月18日～20日】

50年に1度の親鸞聖人の慶讃法要に参拝させて頂きました。前住職のお話によると、50年前は当寺から門徒37人くらいがバス1台を貸し切り参詣されたということで、時代の移り変わりを感じられます。今回私たちは、御影堂での参拝で、身の引き締まる思いでした。初日は大阪難波の「かに道樂」で舌づみを打ち、翌日、京都では「南座」での「若き日の親鸞聖人」の舞台を鑑賞し、国立博物館では聖人ゆかりの展示があり、多くの外国人観光客が熱心に観覧していて、京都はまさに親鸞一色。八百年前の聖人の立教開宗が現在に至り、外国の人々にも影響を与えていることを実感しました。また、旅行中は皆さん和気あいあいと楽しい思い出のある2泊3日でした。ブロック長として同行された住職には、参加者全員が無事帰宅するまで気の抜けない大変な思いをされただろうと推察しました。

感謝しています。ありがとうございます。
長岡 純治

当日まで、身体の心配をしておりましたが、お陰様で何事もなく、無事に参拝できた事に感謝いたします。団体参拝への参加は、2回目でした。今回、特に印象に残ったのは、親鸞聖人御誕生の地「日野の里」で親鸞聖人のお生まれのエピソードを色々聞いた事でした。また、南座では、若き日の親鸞聖人の劇を観て感動いたしました。この様に皆様とご一緒に行けたことが、よい思い出になりました。ありがとうございます。



4月18日から2泊3日の行程で、長崎組第3ブロックの『宗祖親鸞聖人御誕生ハ百年慶讃法要』への団体参拝旅行が実施されました。正法寺からは、住職を含む11名が参加。50年に一度という法縁に、それぞれさまざまな思いを持たれたようです。感想と共にその様子をお伝えします。

【3日目】

平等院||日野誕生院||法界寺
難波別院||四天王寺||大阪城

【2日目】

京都国立博物館『親鸞聖人展』

団体参拝主な行程

【1日目】

東本願寺にて法要に参拝||

京都国立博物館『親鸞聖人展』

共にその様子をお伝えします。

す。



上山法要参拝に参加したいと思ったのには、理由が2つあります。この団体旅行の行程に興味があった事、親鸞聖人と本願寺の歴史を現地で体験したかった事です。上山参拝を通して特に印象的だったことが3つあります。東西本願寺の壮大さと威厳。南座での舞台鑑賞を通して聖人の人としての生方々と京都という聖地を伴にし、その空気感を楽しみながらお勤めをご一緒できた事です。豊千豊敷の御影堂での恩徳讃を唱和できた事は、仏教での人間の価値を決めると言われている「知恩・感恩・報恩」を改めて感じられた、貴重なそして有難い経験となりました。四天王寺、平等院では極楽浄土の世界を垣間見る事ができました。東本願寺での歓迎花としての仏華展、別室での御斎、座席に置いてあつた膝掛け、門徒1人ひとりを大切にされるおもてなしの心が実際に素晴らしい、そして思い出深い旅行でした。今日も又、南無阿弥陀仏を称えております。

木谷 憲祥



4度目の上山に参加させていただきました。その都度に縁の地を見学し、今回はまた新たな地を訪ねて、いろんなことを学ぶことができました。最後に本山での厳粛な法要、恩徳讃齊唱に感激し、参拝させていただいたことに感謝しました。

匿名希望

この度、慶讃法要の御縁に遇う事が出来ました。御影堂に身を置き、親鸞聖人のお言葉にふれて、味わい、うなづく。一生をかけて教えを伝えて下さった御恩に報いる歩みを続けなければと思いました。

匿名希望

長崎組第3ブロックの百数名は、ほぼ一機貸切り状態にて長崎空港を出発！現地ではバス3台に分乗して3日間の行程であった。日野誕生院や法界寺の見学、京都南座にて「若き日の親鸞」舞台劇、さすが関西とあって随所に笑い有り、カンゲキ！（2日目）。本山にて数千人が一同に会しての慶讃法要（3日目）。駆け足での参拝旅行で、すべてが桁外れの貴重な体験であった。

今回の「南無阿弥陀仏」と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマのもと、自分自身、前を向いて歩んでいきたいと思つたことであった。

三根 義久



洗心会活動報告



春の法要 5月14日(日)

【釈尊降誕法要／初参り式】を開催！



今年も例年通り春の法要を開催いたしました。法話は法務員の島田さんでした。初参り式には3家族が参加されました。今年は初の試みとして、お座敷での「抹茶たて体验」を実施し、賑やかなひと時を参加の会員さんと共に過ごしました。来年以降も続けたいと考えております。



今年の洗心会研修会はお昼をはさみ1日研修会の形態で開催することになりました。ご講師には、お西の布教使である松尾整子さんをお迎えしました。午前中は親鸞聖人の和讃を味わいながら、先生のこれまで的人生、そして今に

ついてお話をいただき、午後からは5班に分かれ3つの感情を3つの色の付箋に書いた後、それを見ながら座談をしました。今まで感じたことのない温かな空気を包めた、素晴らしい研修会となりました。



洗心会一日研修会開催！
6月18日(日) 参加者27名

グリーフケアの視点から③ ~坊守発信~

グリーフケアの視点から3回目の発信です。

《グリーフとは大切な人、ものなどを失うことによって生じるその人なりの反応、プロセスのこと》

新型コロナウイルスの影響下で、葬儀を中心に法事や仏事の形に変化が進みました。簡略化をのぞまなくともそうなる場合もあるようです。何かご心配なことがあればお寺にご相談ください。

新型コロナウイルスの有無に関係なく、身近な方とのお別れというのは人生の中でも非常に大事な時間です。葬儀から49日までの時間を過ごす中で、亡き人との出会い直しができ、そしてゆっくりとお別れができます。ぜひその時間を大切にしていただきたいと思います。

人は喪失体験をした時、心理的・身体的・社会的など多方面に影響がでます。今回は社会的な面でのご紹介をします。

社会的影響

【学校・会社に行けない・人間関係悪化・過活動・不信感・孤独感・孤立】

喪失を経験すると、悲しみだけがおこるのか?というとそうではありません。上記にあるように、様々な社会的な影響が複雑に入り混じることがあります。しかもそれは、一人一人生じ方が異なります。「今まで平気で行っていた職場に行けない」「非日常の状況において頑張りすぎる」「頼れる人が周りにいない」「亡くなった方の影響で人間関係が変化する」など、初めてことに否定したくなることもあるかもしれません。そういういった混乱は誰にでもおこる自然なことです。

どうかゆっくり、あせらずにお過ごしください。

次回は精神的影響をご紹介します。

参考図書「大切な人を亡くしたあなたへ」⇒
製作:リヴィオン 書籍が欲しい方は坊守まで



これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には
仏教由来の言葉が実はたくさん。
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

「愚痴(ぐち)」



日常会話では、「あのひとは愚痴(ぐち)っぽいね」などと使います。愚痴は「言つても仕方のないことを嘆くこと」ですが、これはもともと仏教語です。意味は「仏さまの眞実の智慧(ちえ※)に暗いこと」です。

人は「自分のこころ」を信じているので、へ眞実)が見えません。ところが、仏さまは「人間のこころ」を煩惱(ぼんのう)と教えて下さいます。煩惱とは、怒りや欲望の感情のことですが、それは表面的なことで、もつと深い煩惱は、比べられないものを比べて悲しみ、苦しむこころです。煩惱は「比べるこころ」ですから、いつでもひとと自分を比べます。ですから、時には「自分も捨てたものではない」と自惚(うぬぼ)れることもあります。「どうせ自分なんてダメな人間だ」と自棄にもなります。それを操っているのが「人間のこころ」、つまり煩惱です。ただし、それが煩惱のはたらきだと気付けば、煩惱の束縛から解放されることがあります。「仏さまの眞実の智慧」は、私たちの「人間のこころ」を煩惱と教え、眞実に背いていると叫び続けているのです。

※智慧

知識や教養を表す知恵とは異なり、自分で気づくことも、見ることもできない自らの姿を知らしめる仏のはたらきを表す。

武田 定光



(法務員／島田)



はるかの春の家

OPEN 11時
定休日:木曜日

〒856-0817
大村市古賀島町346-6
0957-52-1271

みつけた!

新しい法務員が入りました。
どうぞよろしくお願ひいたします!!

はじめまして、職されたことを谷和也と申します。出身は、石川県小松市のお寺です。29歳の時に京都にある大谷専修学院で一年間学び、お坊さんの資格を取 得後、ご縁あった京都のお寺にて8年過ごしておりました。前任の木村さんが転

きつかけに、お話をいただき4月より正法寺さんでお世話をことになります。これからよろしくお願いします。



月刊『同朋』で
坊守の連載が
始まります!



東本願寺出版の月刊雑誌『同朋』にて、坊守がリレー法話の執筆を一年間担当することになりました。7月号が初登場となります。ぜひこの機会にお読みください。お寺にもありますが、自宅へ毎月配達される月刊購読もおすすめいたします。

↓3名で担当します!!



いつも、現在から

来月号から新たな執筆者で担当

ります。この機会にぜひ!

TEL 075-371-9189
FAX 075-371-9211

真宗・入門



どごうろ せいじ こうろ
土香炉（青磁の香炉）



香炉は三本足の一本が手前にく
るよう、花瓶と燭台の間に置
きます。お勤めの前に香炉の大
きさに合わせ、数本の線香を折
り、火をつけた方を左側、横にね
かせ焚きます。これを【燃香】
と言います。

お内仏の莊嚴（お飾り）を知ろう！

今回は土香炉とお香についてご紹介します。

インドは多くの香木の産地で、酷暑の悪臭を防ぐため、お香は活躍します。お香を焚き、身や心、その場を清めるという習慣は仏事にも取り入れられました。

『香華を手向ける』と言われるように、昔は葬儀などの場に供物やお花、お香を持ち寄り、準備を助け合いました。そのならわしが御香典や御香料といった言葉に残っています。

このようにお香も大切な莊嚴（お飾り）の一つですので、必ずお勤めの前に焚き、法事など特別なときには焼香（金香炉に火種）も用意するとよいでしょう。

親鸞聖人は淨土和讃の中で『染香人』という表現をされました。お念仏の教えをよろこぶ人は、身から智慧の香氣を放つて、いるようで、阿弥陀仏よりたまわる智慧の香りと光によつて、人生が美しく飾られていることをたとえておられます。お香から阿弥陀仏の願いが身にそなわる感覚を味わいましょう。

本来の【燃香】は抹香（粉末の香）を盛り、火をつけて燃ずることをいいますが、現在は線香で代用しています。線香は立てるものとして作られていますが、お内仏（仏壇）や香炉の大きさによつては、倒れて火事になる危険性があるので、安全のためにもねかせておきましょう。

10月28日の月一報恩講では、オリジナルのお線香作りがありまますので、是非体験しに正法寺へお越しください。



住職が語る『正信偈』 第22回



ほんじどんらんりょうてんし
本師曇鸞梁天子

じょうこうらんしょぼさらい
常向鸞處菩薩礼

さんぞうるじゅじょうきょう
三藏流支授淨教

ドでんじんぼさく
天親菩薩のこと

てんじんぼさく
活躍された二人、龍樹菩薩・

渡り、大切な教えとして多くの学僧が誕生し研究されていくのです。今回からは中国における一人目の先師、曇鸞大師のことが語られる段落です。

前回までは、お念佛の教えを後世に伝えて下さった七人の高僧の内、インドで活躍された二人、龍樹菩薩・天親菩薩のことを学んできました。その教えはシルクロードを通って中国に渡り、大切な教えとして多くの学僧が誕生し研究されていくのです。今回からは中国における一人目の先師、曇鸞大師がいかに中国で高名な僧侶であったかが語られています。それが最初の「本師曇鸞梁天子常向鸞處菩薩礼」というところです。すなわち「浄土真宗の祖師のお一人である曇鸞大師は、梁の国の皇帝である武帝が、常に曇鸞大師がおられる北方に向かって菩薩として敬つて手を合わせていた方である」というのです。下は曇鸞大師の人となりをもつと掘り下がっていきましょう。

曇鸞大師は中国の南北朝時代、北魏という国に生まれた方です。西暦四七六年～五四二年まで生きたと伝えられています。南北朝とあるようにこの時代の中国は、北方の騎馬民族の侵攻を受け北部ではその流れをくむ北魏という国が建国されます。また南部では六部を追われた漢民族の流れをくむ王朝ができます。その南朝では西暦五〇九年に梁という国が興り約五十年ほど南

帝が武帝です。武帝は自らも数回にわたり出家をするほど、仏教に傾倒した方だと言われています。その武帝の元にも北部で活躍されている曇鸞大師の名声は届いており、深く敬っていたというのがここで讃嘆されているのです。

さて曇鸞大師は、まず龍樹菩薩の「空」の思想を学ばれていきます。「空」とはどちらから離れるといふことです。私たちは「有無の見」という物事に固執する根本的な煩惱を持っています。そのことは不十分ではあります。ですが龍樹菩薩の回でお話しさせていただきました。それに対して「空」という教えがあります。どちられない、無執着というあり方です。そのことを曇鸞大師は当初、研究しておられたのです。

その後曇鸞大師は、その「空」の思想を説いた經典を注釈して、世の人々を苦悩から救いたいと願い、その事業に身命を注がれます。ところがその道半ばで病に伏すことがあります。ところがその道復するのですが、このままではこのことを成し遂げる前に寿命が尽きてしまいます。南北朝とあるようにこの時代の中国は、北方の騎馬民族の侵攻を受けて北魏ではその流れをくむ北魏といいます。南北朝とあるようにこの時代の中国は、北方の騎馬民族の侵攻をう国が建国されます。また南部では六部を追われた漢民族の流れをくむ王朝ができます。その南朝では西暦五〇九年に梁という国が興り約五十年ほど南

部を支配するのです。その梁の国の皇帝が武帝です。武帝は自らも数回にわたり出家をするほど、仏教に傾倒した方だと言われています。その武帝の元にも北部で活躍している曇鸞大師の名声は届いており、深く敬っていたのがここで讃嘆されています。

曇鸞大師「仏教の中に、この仙經以上に勝れた長寿の秘法がありましようか?」菩提流支「どんなに長生きしても、迷いの中においては何も変わらない。その中に気づきなさい」と。

曇鸞大師はこの言葉を聞き、これまでの自分の求道がいかに迷いの中にあったかに目覚めます。「空」という思想を研究しながらも、長寿ということに固執していた自分自身に気がつくのです。迷いから目覚めた曇鸞大師は、菩提流支から淨土教の經典である『觀無量壽經』を授けられ、苦労して求めた仙經を焼き捨てます。淨土の教えに帰依された曇鸞大師は、やがて菩提流支が中國語の翻訳を手がけられた『淨土論』の注釈や、阿彌陀仏やその淨土の徳を称える『讚阿彌陀佛偈』の制作などに心血を注がれることになります。

そこで曇鸞大師は、不老長寿の秘訣、中国古來の健康法を学ぶため、當時二仙術の權威・陶弘景の元を訪ね、道教を学び仙經十卷を得ました。これで長生きして仏教をより深く学んでいました。

帰敬式受式を考えておられる方はぜひご参加ください。

お待ちしています!!

月一報恩講「行いがわたしを導く時間」

令和2年から始まった「行いがわたしを導く時間」。今年も新しい内容を取り入れて始まります。

毎回必ずお念佛とお勤めの時間があり、さまざまなワークと一緒に行っています。

それらの経験からみなさんが「仏さまの心」に気づいていく、「わたし」の内面に向かっていく。

そしてその両輪が感謝の心・報恩の心につながっていく——そんな時間にしていきます。

この場がみなさんの生活の一部となりますように。

3月

赤本の世界

終了



全く初めてでも大丈夫。
正信偈の読み方を中心にお伝えします。

4月

終了

ハス
ワーク



専用紙と紙コップで作るハスの花作り。
お盆のお飾りにもおすすめです。

5月

終了

カンタン
腕輪念珠作り



左手首に付ける、普段使いに便利な
腕輪念珠を作ります。

6月

真宗門徒の
終活ノート

「法名」は本名、
生きている間にいただくもの。
12月の帰敬式のこともお話しします。

10月

今年は
ココ
が違う!!

お線香を作ろう

手作り線香キットを使って自分だけの
オリジナル線香を作ります。

7月

仏具を磨こう

ご自宅の仏具、お寺の仏具と一緒に
磨きます。磨き方も細かく説明します。

11月

花を
いけてみよう

少しだけコツを知ると、
花のいけ方はがらりと変わります。

帰敬式
説明会
同時間催

9月

DODALO?カード

カードにある話題をきっかけに、
みんなで楽しくおしゃべりをします。

12月

御正忌
報恩講
(帰敬式)

帰敬式は別途お申し込みが必要となります。

感想

集中できる時間があっていい。

この場が生活の一部になっている。

お盆が華やかになってご先祖様も喜びそう。

まずは1年に1回だけでも変わるものかもしれません。

お問い合わせ

お電話、もしくはホームページより
TEL 0957-52-2247

正法寺 大村 検索
<http://omura-shoboji.jp/>



今年は
ココ
が違う!!
正信偈
書写本

なぞって書く正信偈書写本、
初心者でも安心。
書いて学ぶ現代語訳付き!



正法寺大村
十八子が教
える
ファシリテーター
(その場の苟合進行役)
produced by fanfan

正法寺LINE公式もあります。

まずはお友達登録を!



LINE登録者、

増えてます!!

真宗大谷派

専念山 正法寺

大村市杭出津2-708 TEL 52-2247